

安曇野の原風景を巡る ふるさとウォッチングマップ

No.25

三郷中萱地区

一貞享騒動の名残を伝える
緑豊かな集落を訪ねて一

安曇野市南部の中萱集落。その誕生は中世にさかのぼり、以来農業用水堰の開削とともに新田が開発され、南安曇地方の農村集落の一角を形成してきました。江戸時代の貞享3年(1686)、中萱村の農民を中心に発生した農民一揆「貞享騒動」は松本藩史上に残る大事件となりました。貞享義民ゆかりの場所をはじめ、県下最大級の御船が登場する例大祭をおこなう熊野神社や、安曇野らしい屋敷林と古民家が連なる農村集落のいまを探访します。



**NPO法人 安曇野ふるさとづくり応援団
安曇野案内人倶楽部**

※本マップは下記のサイトからダウンロード可能です
<http://azumino-sanpo.info/>

◆コースタイム ※時間は歩速3km/時としての目安です（休憩含まず）

スタート 貞享義民記念館→約0.2km＊4分→熊野神社→約0.3km＊6分→貞享義民社→約0.8km＊16分→多田加助宅跡→約1.4km＊28分→屋敷林の町並み→約0.2km＊4分→観音堂→約0.2km＊4分→見石山歓喜寺→約1.2km＊24分→屋敷林の町並み→約0.4km＊8分→貞享義民記念館 **ゴール** 【合計】約4.7km：1時間34分



※私有地への立入はご遠慮下さい。



(a) 貞享義民記念館
貞享騒動や往時の暮らしを伝える施設



(b) 屋敷林の続く道
市木・ケヤキの巨樹が並び



(e) 八坂神社跡
明治40年(1907)に熊野神社に合祀



(d) 見石山歓喜寺
法隆寺の十王堂の跡地へ創建



(c) 堰沿いの畦畔木（ヤナギ・クルミ）
昔の堰沿いの景色の名残を伝える巨樹

【注】マップ内の情報はふるさとウォッチングを開催した2017年10月1日現在の内容です。

① 熊野神社

中萱村の産土神で、紀州の熊野新宮より分霊を受けて創建されました。春日造の本殿および境内社の旧八坂社本殿はともに安曇野市有形文化財指定で、それぞれ17紀中期と後期の建築とされています。貞享騒動発生前、多田加助が同志らと集まって密議を行ったのが同社であると伝わっています。

【本殿・旧八坂社本殿：市有形文化財】



熊野神社

② 貞享義民社

貞享騒動から50年を経た享保20年(1735)、多田家において加助ら処刑された一族を祀る祠を邸内に建てられ、明治13年(1880)に同志12柱を合祀して200年祭を行い、現在地に社殿を造営したのが同社の始まりです。当時は加助神社と称しており、昭和35年(1960)に現在の貞享義民社へと変更されました。

【貞享義烈碑・梧竹の額：市有形文化財】



貞享義民社

③ 多田加助宅跡

義民社の西側には元庄屋であった多田加助の屋敷跡を見ることが出来ます。東西30間(約54m)、南北35間(約63m)の広さで、木戸口を東に向け、四方に堀と土塁を巡らせていました。東南の角に堀と土塁の跡が残っています。

【多田加助宅跡：県史跡】



多田加助宅跡

④ 屋敷林の町並み

屋敷林の残る古民家・土蔵の並ぶ落ち着いた町並みは、まさに安曇野の典型的な集落景観といえます。屋敷林として季節風を防ぐ等の役目を持っていた樹木が庭木として維持されており、美しい樹姿の木々が連なります。沿道の源氏堀や石垣とも調和し、落ち着いた空間が形作られています。



緑豊かな道筋の風景

⑤ 観音堂

かつて中萱には真々部七寺のひとつと伝わる法国寺という寺があり、この観音堂の場所を中心に建立されていたとされています。のちに少し南の地に本堂庫裏などを建立しましたが、明治の廃仏毀釈により廃寺となり、明治17年(1884)になって現在地に観音堂を再建。本尊の十一面観世音菩薩を迎え安置して現在に至っています。



観音堂

⑥ 中萱学校跡

明治初年、中萱村で建てた学問所が近辺にあり、村の子弟教育が行われていました。明治6年(1873)、長尾村の協成学校の支校となった時、廃寺になった法国寺に移り、その後明盛尋常高等小学校に統合される明治41年(1908)まで地域の学び舎として運営されてきました。



中萱学校跡を伝える石碑

⑦ 宮澤家住宅

明治から昭和初期にかけて建築された主屋と付属建物の合計数棟のほか、石塀、門などが国登録有形文化財となっています。製糸業で栄えた旧家で、二階の大広間は公私にわたる接客場として使用されたそうです。戦前の和風建築住宅の典型として貴重な存在です。屋敷林を伴う庭も見事です。(個人宅につき、敷地内への立入りはお控え下さい。)

【主屋他8棟：国登録有形文化財】



宮澤家住宅

貞享騒動と貞享義民記念館

貞享騒動は貞享3年(1686)に松本藩領で起きた百姓一揆。松本藩は年貢1俵あたりの玄米の量を3斗から3斗5升に引き上げる決定(周辺の1.4倍の量)をしたため、中萱村の多田加助をリーダーとする同志たちは、増徴策に反対して5ヶ条の要求を掲げて越訴に立ち上がりました。これを知った領内の農民一万人近くが城下に押しかける騒ぎとなり、いったんは要求を勝ち得たかに見えましたが、藩側の奸計により指導者たちは捕らえられ磔・獄門の極刑に処せられてしまいました。

貞享義民記念館は、この騒動を顕彰する記念館です。多田加助の行動や経過を分かりやすく解説する立体映像をはじめ、当時の農村生活を紹介する展示コーナーなどがあります。

